

ち  
え  
ん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。

Chi·e·n

## パレードで地元のまつりを盛り上げる

年に一度開かれる、地元最大のイベントを  
全国大会で金賞を受賞した吹研が盛り上げる

そろいのコスチュームを着こなし  
演奏しながら行進するマーチング・バンド

地元のまつりにエネルギーを注ぎ  
秋風とともに大通りを駆け抜ける



10月6日 伊勢原市内で行われた「第52回伊勢原観光道灌まつり」での「東海大学吹奏楽研究会」によるパレード

02-03

第10回“らえん”をつくる人々  
2019年度東海大学連合後援会研究助成金地域連携部門  
〔秦野市と東海大学の連携による多文化共生推進プロジェクト〕

04-05

地まつり探訪記  
#02 伊勢原観光道灌まつり  
大学から地域へ 特別編  
関係企業による地域貢献

06-07

つかのはら通信  
大学と地域の連携活動をご紹介  
International Students' げしゅくLife  
大好きな日本で機械を研究する工学系女子  
学生4コマ漫画 I·MA·DO·KI

08

学びたいときが、まなびどき 生涯学習講座 vol.2  
「メディカルアロマでケアする不調」と「メディカルハーブでケアする不調」講座

Information

TAKE FREE  
October 2019

Vol.10

東海大学地域連携紙「ちえん」(湘南版) Vol.10  
発行日／2019年10月30日  
発行／東海大学地域連携センター  
後援／平塚市、秦野市、伊勢原市



## 大学と地域が手を取り合い 「外国につながる子ども」たちを育てよう

**第10回 “ちえん”をつくる人々**  
2019年度東海大学連合後援会研究助成金  
地域連携部門  
  
「秦野市と東海大学の連携による多文化共生  
推進プロジェクト」

ブラジル、ペルー、ベトナム——神奈川県秦野市には現在、約 70 力国、3000 名以上の外国人が暮らしている。今年4月に改正入管法が施行され、さらなる人口増加が予想される中、外国籍の子どもへの教育支援の充実が急がれる。教養学部国際学科の小貫大輔教授が研究代表を務める「秦野市と東海大学の連携による多文化共生推進プロジェクト」(2019年度東海大学連合後援会研究助成金地域連携部門採択課題)では、秦野市を拠点に外国籍の子どもたちをサポートする取り組みを展開している。プロジェクトに携わる3名の思いを聞いた。

## 今が変革のとき 日本中にサポートの輪を広げる



ワークショップでは年齢や立場が異なる人たちが意見交換

私は 1988 年から 2005 年まで、独立行政法人国際協力機構 (JICA) などに所属しながら、ブラジルをはじめ南米の国々で社会貢献活動に従事していました。東海大学には 06 年に着任し、09 年から 5 年間、東海大による在日ブラジル人教育者の養成講座を開き 200 名以上が卒業してきました。以降は学生とともに、外国籍の子どもの支援を行う「はだの子ども支援プロジェクト『ゆう』」や、私が運営委員を務める在日ブラジル人を支援する NGO 団体「CRI—チルドレンズ・リソース・インターナショナル」と連携した活動も実施しています。

また、東海大では教養学部国際学科以外でも、健康学部の妻鹿ふみ子教授が社会福祉、国際教育センターの田口香奈恵准教授が日本語教育と、

専門分野を生かして在日外国人の支援活動を行っています。「秦野市と東海大学の連携による多文化共生推進プロジェクト」は、こうした支援活動を大学と地域、自治体でコンソーシアム化してはどうかという提案です。その前身として立ち上げた「彩とりどりのはだの」はすでに 2 回、秦野市在住の外国人や市内の小学校の教員を招いて、多文化共生について意見を交わす勉強会を開いてきました。

8 月には、さらに市民が意見交換できる機会を設けようと、「未来の日本を担う『外国につながる』子どもたちのために」と題した講演会とワークショップを開きました。講演は岐阜県可児市で外国籍の子どもの支援に尽力された愛知淑徳大学交流文化学部准教授の小島祥美さんにお願いしたのですが、そのパワフルだったこと（笑）！ 「自分も動かなくては」と感化された人がたくさんいたようです。ワークショップでは年齢や立場の異なる人たちが意見を出し合い、プロジェクトとしていいスタートを切れたと感じました。その後も月に 1 回、秦野市立渋沢小学校で「外国籍の保護者のための小学校の授業」という催しを開いて算数・国語の授業を体験してもらったり、学校とのやり取りで困っていることを聞いて回ったりしています。

今年は入管法が改正されて、日本が外国人を呼ぶと宣言し、多文化共生社会に一歩踏み出しました。

その流れの中で日本語教育推進法ができ、政府や自治体が外国人の支援や教育をすると言明したんです。ただ、具体的に動いていくには、在日外国人の声と、これまで支援活動をしてきた人たちの経験を伝える必要があります。大学は、政府や自治体に彼らの声をスムーズに届けるサポートをしていく立場。「今は変革のときなんだ」と、多くの人に気づいてもらいたいですね。



教養学部国際学科 小貫大輔教授

## 多文化共生の種をまき

## 外国语の子どもたちの居場所をつくる



自由研究用の実験も行ったTICCの  
「夏休み宿題サポートプロジェクト」（2018年）

「はだの子ども支援プロジェクト『ゆう』」では、東海大学チャレンジセンター「Tokai International Communication Club(TICC)」と一緒に、6年前から秦野市に住む外国语の子どもたちを対象とした学習支援教室「にこティー教室」を実施しています。それ以前も市内で同じような活動はしていましたが、同じ場所を通年借りることが難しく、市内を転々としていた時期もありました。にこティー教室を開いている秦野市立南公民館は、昔私がコーディネーターを務めていた上智大学短期大学部の学習支援ボランティアで使用していました

場所で、活動終了と入れ違いで TICC が借りるようにならったんです。同じ場所でできると子どもも来やすいですし、保護者も安心しますよね。先生役の学生と仲良くなると、子どもたちが「ここは自分の居場所」と感じてくれるようで、少しづつ人数が増えています。

昨年6月、にこティー教室にずっと通っているブラジル人姉妹のお父さんと秦野キリスト教会の牧師さんから、教会に通うブラジル人の方々が、子どもの教育や生活の支援が足りず困っているという話を聞きました。また、そのお父さんは「自分は日本とブラジル両方の言語を話せるから、小学校でボランティアをさせてほしい」と市に申し出たそうですが、「市には専属の通訳の方がいる」と断られたというんです。それはちょっとおかしいんじゃないのか、どうにかできないのか……と思い、ブラジルのことがわかる人を探して、小貫先生にたどり着きました。

また、秦野市以外でも学習支援活動に携わる中で、伊勢原市で妻鹿先生と出会い、TICC の活動で田口先生と一緒したことを機に中井町での支援活動も始まり、市内の小学校で CRI に参加している渋沢小学校の川原翼先生にお会いして……近隣地域が同じテーマでそれぞれ動いているのならみんなで協力しようと、「秦野市と東海大学の連携による多文化共生推進プロジェクト」の話を持ち

上がりました。私のような一市民が何かをやろうとすると、「どこの馬の骨」になってしまふところですが、大学と連携するとできることが広がっていきます。8月の講演会も、アンケートを見返すと参加者の皆さんはとても満足してくれたようで、多文化共生を意識づける種まきができるような気持ち。一人ひとりが「動かないといけない」と、自分事に捉えるきっかけになったと感じています。



はだの子ども支援プロジェクト「ゆう」 三田村晴美さん

## 小貫先生との再会が生命線 教育の現場と外部の支援をつなぐ

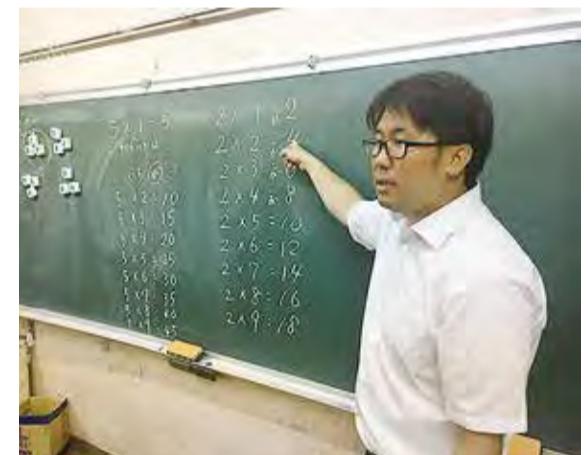


秦野市立渋沢小学校教諭 川原翼さん

私が生まれたのはブラジルのサンパウロ、曾祖父が日系移民だったんです。1歳のときに兵庫県神戸市へ引っ越しましたが、今でも親戚がブラジルに住んでいます。大学2年生の夏休みに、自分のルーツを探そうとブラジルへ行きました。事務所を見学させてもらえたと思って JICA に連絡し、紹介されたのが小貫先生で、「見学だけなんて言わず、プロジェクトに参加しなよ」と声をかけてもらいました。3年時に休学してブラジルに渡り、きちんとした教育を受けることによって成長していくスラム街の子どもたちを目の当たりにして、教員を志しました。

ブラジル人が多く住んでいる地域で教えるたいと思い、採用試験に合格した神奈川県で秦野市を希望したら、同じころに小貫先生が東海大に着任していて、偶然再会したんです。そこから CRI に入って在日ブラジル人の支援活動をしてきたので、小貫先生は本当に大きな存在ですし、再会したことが今の自分につながる生命線だったと感じています。また、以前勤務先に東海大の留学生が異文化交流で来てくれたとき、田口先生と三田村さんにお会いしてネットワークが広がっていました。

「彩とりどりのはだの」で勉強会をやってよかったと感じたのは、今まで一人ひとりの教員が感じていた悩みや要望を共有できたことです。学校にはたくさんの子どもがいるので、職員室で外国语の子どもについて話し合う機会はほとんどなく、教員同士が



算数の授業の様子



渋沢小学校で行われた外国语の保護者のための授業風景

「私もそう思ってた！」と語り合う場所をつくれたのは大きい。校長先生や教頭先生など管理職の方も参加されていたので、今後外国语の子どもが入学してきたら、勉強会で学んだことを踏まえてみんなで協力しようという雰囲気ができると思うんです。

教員からよく聞く、「外国语の子どもも以上に、手をかける必要がある日本人の子どもがいる」という意見には私も共感しますし、正直通常の業務で手いっぱいです。だからこそ、大学や支援団体と協力したいです。私はプロジェクトの中で唯一の小学校教員なので、双方をつなぐことが役目だと思います。少しづつこの活動が広がり、いつか全国の小学校で外国语の子どもに対する支援が充実することを願っています。

# 地まつり 「探訪記」

## #02 伊勢原観光 道灌まつり



このコーナーでは、東海大生が地域のお祭りやイベントなどで活躍している様子を紹介していきます。

今年で52回目を迎えた「伊勢原観光道灌まつり」は、「東海大学吹奏楽研究会」が出演しています。今回は、道灌まつり実行委員会事務局の多田悠磨さんと、東海大学吹奏楽研究会のドラムメジャーを務める小東大悟さんにインタビューしました!!



道灌まつり実行委員会事務局  
伊勢原市役所商工観光課  
多田悠磨さん

### 3. 吹奏楽研究会の出演で 地元の人からの反響は?

事前に一般の方から、「吹奏楽のパレードはいつの日の何時?」といったお問い合わせのお電話があり、ファンがたくさんいるのがうかがえました。



東海大学吹奏楽研究会  
ドラムメジャー 小東大悟さん  
(教養学部芸術学科デザイン学課程4年)

### 1. 道灌まつりに出演するきっかけは?

道灌まつり実行委員会から依頼を受けて出しています。大会と被ってしまうと出演できないのですが、今年は無事に出演することができてうれしいです。

### 3. 出演してみてどうでしたか?

大会のステージは客席と距離がありますが、道灌まつりは沿道の方々の表情や声援がとても近く、皆さんの反応がうれしかったです。



### 1. 道灌まつりの由来は?

江戸城築城に携わり、伊勢原市で生涯を閉じた戦国武将・太田道灌と、伊勢原市内にある日向薬師を参詣したとして知られる北条政子にちなんだ祭りです。

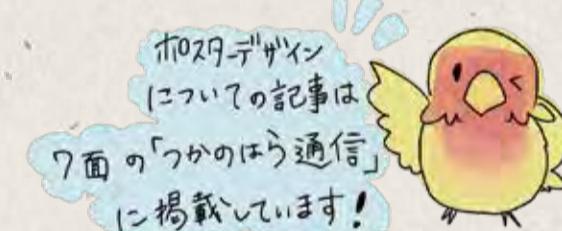


### 2. 吹奏楽研究会は「道灌まつり」で どのような役割を担っていると思いますか?

若く活気に満ちあふれた演奏で、祭りを盛り上げてくれる存在です。

### 4. これから吹奏楽研究会や、東海大に 期待していることを教えてください

吹奏楽研究会だけでなく、ポスター・デザインなども東海大の学生さんにお願いしているので、これからもよい関係を築いていけたらと思っています。



### 2. ドラムメジャーとはどんな役割ですか?

隊列を指揮する役割で、指揮杖を持って先頭を歩きます。楽曲のセレクトも担当し、定点演奏ではゴールデンボンバーの「令和」などを演奏しました。みんなが知っている曲なので盛り上がったよかったです。



### 4. これから地域とどう接していくたいですか?

今後も地域貢献としてぜひ道灌まつりに出演し、地域の皆さんに演奏を披露させていただけたらと思っています!





# TOKAIグローカルフェスタ2019 特別編 大学から地域へ —関係企業による地域貢献—

今回は、特別編として10月19日に開催した「TOKAIグローカルフェスタ2019」\*にご協力いただいた協賛企業の方にスポットを当て、その素顔をご紹介！

## Close up!

TOKAIグローカルフェスタ2019  
グラウンド・ゴルフ大会運営で大活躍  
株式会社VSN新卒リクルーティングセンター  
**高木 駿太さん**

川崎市出身、横浜市在住

25歳（貢禄たっぷり）！

趣味は動画投稿

## Profile

IT企業で営業職を経験。新人最優秀営業マンに選ばれたことを機に、就活生との交流機会が増え、人事職へ転職を決意。2018年2月にVSNに人事担当として入社。入社直後から東海大学の採用担当を務める。数百の面談経験を生かし、学内でのセミナーやVSNを志望する学生を対象に面談に奔走中。湘南キャンパスのインターナショナルカフェや、キャンパス近くのはま寿司にもよく出没！



**高木さんは現在、東海大学の採用担当を務め、週に1、2回は東海大を訪れ、セミナーや学生の面談を行っています。学生時代に110社の採用試験を受けた経験から、学生目線を大事にするリクルーターです。**高木さんの上司と、当時札幌キャンパスに勤務していた地域連携課の池田課長とのつながりで、昨年度からグローカルフェスタに協賛いただいている。今回のグローカルフェスタには、自ら志願してお手伝いにお越しいただきました。

「**ごろはリクルーティングの面から東海大との関係を構築しようと頑張っています。グローカルフェスタに会社としても力を添えたく、協賛させていただきました**」と話す高木さん。自身は東海大の卒業生ではないものの、プログラムの一つ「人生100歳時代グラウンド・ゴルフ大会」に尽力。「純粋に協力したい！と思って(笑)」と持ち前の笑顔で志願した理由を教えてくれました。

「**“グローカル”と聞いて最初はピンときませんでしたが、お手伝いとして参加して、さまざまなプログラムを地域の人々が楽しんでいる様子を見て、“グローバル”と“ローカル”がうまく溶け合っているなと感じました。また来年も楽しみです！』**と振り返る高木さん。大学と地域のつながりを、企業の力、そして明るい高木さん的人柄で盛り上げてくださいました。

特製のプロフィールを携えて、  
東海大の就活生を応援!!

サポーター紹介  
株式会社VSN  
新卒リクルーティングセンター  
高木 駿太



質問はあるがまだ25歳。学生自身持つリクルーター。  
卒業後は110社の会社を訪ねた経験あり。  
選んだ部署は就職活動。  
卒業後は東京に本社を置く会社で営業職を担当。  
学生時代は湘南キャンパスに就活。  
就活生や方針者との交流機会が増える。  
その他の経験から、人事職への意を抱くように。  
2018年2月VSNへ入社して就活。  
入社後すぐ、  
会社のリクルーティング業務であるVIAを担当。  
専属で採用担当を務めています。  
専門知識も豊富で、就活相談などもしている。  
就活の実践経験もあり。  
東海大学内でセミナーなどで自身のプレゼン力を發揮。  
学生からの、話を聞き取ること、反応傾向を察する力。

Value  
Chain  
Innovator



グローカルフェスタのスタッフジャンパー・帽子がお似合い！  
グラウンド・ゴルフ大会の運営に協力する高木さん（左）

## ※「TOKAIグローカルフェスタ2019」

近隣の子どもから大人まですべての世代の方々との交流を目的に、平塚市・秦野市・伊勢原市と連携した、大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベント。東海大学湘南キャンパスで10月19日（土）に開催しました。

イベント当日の様子は右記URLからご覧いただけます。 <https://coc.u-tokai.ac.jp>（東海大学地域連携センターWEBサイト）



# つかのはら通信

平塚市、秦野市、伊勢原市の3市（つか・の・はら）において  
実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。

## ひらつか

### 芸術学科とコラボレーション ラスカ平塚で七夕イベント



教養学部芸術学科の音楽学課程とデザイン学課程の学生たちが、6月28日から7月7日までJR東海道線・平塚駅に隣接する商業施設「ラスカ平塚」で「ラスカ七夕★アーツパーク～アーティスティックな花火を楽しむ～」を企画運営した。デザイン学課程では中込彩希さん（3年次生）を中心に、池村明生教授のゼミの学生が作成した織姫と彦星のイラストがポスターなどに用いられ、ラスカ平塚内のいたる場所で掲示、配布された。6日には、音楽学課程の沖野成紀教授と学生有志23名が「ラスカ七夕★きらめきコンサート」を開催。「日本の四季メドレー」では、会場に集まった子どもたちが一緒に歌う場面もあり、会場全体が和やかな雰囲気に包まれた。

## はだの

### 夏の理科実験教室 不思議なしおり作り



東海大学チャレンジセンター「Connect」が8月2日に、神奈川県秦野市・北矢名児童館で理科実験教室を開催した。秦野市と平塚市に住む小・中学生に、科学が身近にあることを実感してもらおうと企画したもの。3回目となった今年は、紙の毛細管現象を利用して色素を分離させる『クロマトグラフィー』実験を実施。子どもたちは、好きな色の水溶性ペンでろ紙に柄を書き、水を吸うことで1色に見えるペンが何種類かに分離していく様子を観察した。その後、ろ紙を乾かしてしおりを作製。学生たちは、子どもたちの「なぜ色が変わるのが」という疑問に対し丁寧に解説するなど、科学の楽しさを伝えた。

### 現役選手とラグビー体験 「第31回丹沢祭2019」

湘南キャンパスのラグビーフットボール部が7月7日に、本キャンパスのラグビー場で「第31回丹沢祭2019」を開催した。競技の普及などを目的に、近隣のラグビースクールを招いて毎年7月に開いている。当日は平塚市や秦野市など7地域のラグビースクールに所属する子どもたちと、一般申し込みの小学生らが参加。ラグビーの各種プレーを体験できる「スキル・ローテーション」では、同部の選手と現役トップリーガーを含む卒業生らが進行役となり、ラインアウトのリフト体験やタグラグビーなどを通じて競技に親しんだ。



### 夏の国際交流 「マルチカルチャーキャンプ」を開催



東海大学チャレンジセンター「Beijo Me Liga」が、8月23日から25日まで湘南キャンパスで「マルチカルチャーキャンプ」を開催した。8回目となる今回は、ブラジル学校のTS学園（埼玉）とEscola Opaco（茨城）をはじめ、国内各地から約50名の児童・生徒と本学卒業生、一般市民らが参加。プロジェクトメンバー73名と3日間にわたって交流した。初日は13号館の中庭で「巨大絵」に挑戦。9m×7mの巨大な布にクレヨンやマジックを使って好きな国の言葉や絵を書き、手をつないだ人々が地球を囲む絵を完成させた。最終日はブラジルの「ビオダンサ」で交流。音楽に合わせてさまざまなダンスを楽しみ、最後は互いに抱き合い別れを惜しんでいた。

### 秦野市文化会館で 「避難訓練コンサート」



湘南キャンパスの吹奏楽研究会が、9月23日に秦野市文化会館で行われた「避難訓練コンサート」に出演者として協力した。この取り組みは、同会場での公演中に地震が発生した際に、観客や出演者を安全に避難させる訓練として毎年実施されているもの。5回目となる今年は吹奏楽研究会に出演依頼があり、全日本吹奏楽コンクール大学の部（10月26日・リンクステーションホール青森）の出場メンバー55名が舞台に立った。当日は、秦野市民や学園関係者ら約100名が参加し、コンサート中に秦野市で震度5弱の地震が発生した想定で会場正面玄関前に避難した。

### 「秦野たばこ祭」のポスターを学生がデザイン



教養学部芸術学科デザイン学課程4年の佐藤花菜子さんが、9月28、29日に秦野市で開催された「第72回秦野たばこ祭」のポスターを担当した。たばこ祭は、市の発展の礎となたたばこ耕作に携わった先人たちの情熱を「火」にたとえて行われる、市最大規模のイベント。秦野市観光振興課からの依頼を受け、同課程の学生たちがポスターを提案し、佐藤さんのデザインが採用された。佐藤さんは「1年生のときに初めて出かけたたばこ祭で見た提灯の美しさをイメージした。デザインを通じて地域とつながることができてうれしい」と語った。

# いせはら

## 空飛ぶERを間近に ドクターヘリ見学会

医学部付属病院が8月7日と14日、20日に、県内の小・中・高校生を対象とした「神奈川県ドクターヘリ見学会」を伊勢原キャンパスで開催。3日間で児童・生徒と保護者ら104名が参加した。高度救命救急センターの医師や看護師がドクターヘリの役割や消防機関などの協力体制、フライトナースの仕事について紹介した後、参加者はドクターヘリの発着場で操縦士、整備士らの説明を受けながら機体を見学。子どもたちからたくさんの質問が飛び交い、ドクターヘリに関する理解をさらに深める機会となった。



## 認知症啓発イベント「認知症を知ろう」



9月12日に、認知症の啓発イベント「第1回 認知症を知ろう」を医学部付属病院の東海ホールで開催した。認知症疾患医療センターの認知症ケアサポートチームが企画したもの。当日は、患者さんやその家族、近隣住民ら多数が来場し、神経内科と精神科の医師、認知症認定看護師、薬剤師、管理栄養士、作業療法士、社会福祉士らが個別相談に対応。ホール横の会議室では、同センター長で認知症ケアサポートチームの座長を務める医学部医学科の瀧澤俊也教授(神経内科)が、認知症の診断や治療に関する講義も行った。

## 「伊勢原観光道灌まつり」ポスターを学生がデザイン

教養学部芸術学科デザイン学課程3年の中村詩菜さんが、10月5、6日に伊勢原市で開催された「第52回伊勢原観光道灌まつり」のポスターをデザインした。道灌まつりは伊勢原で生涯を閉じた戦国武将・太田道灌にちなんだ祭り。伊勢原市商工観光課から依頼を受けて、2012年から同課程の学生がデザインを担当しており、実行委員会の選考を経て中村さんのデザインが採用された。中村さんは「今回は日向薬師を背景に、太田道灌と北条政子の2人を中央に据えつつ、情報がきちんと伝わるように構成を工夫した」とデザインのポイントを語った。



学生4コマ漫画 作・青田みい  
I・MA・DO・KI 第10回 イベント



「げしゅくLife」では毎回、東海大学に在籍する留学生をご紹介！日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューさせてもらいます！さて、今回ご登場いただく留学生は……？

### International students' げしゅくLife

#### 大好きな日本で機械を研究する工学系女子

アルカリール ライラさん / Alkhaleel Laila  
(大学院工学研究科機械工学専攻1年/出身: サウジアラビア王国)

サウジアラビア出身のライラさんは、父母、兄、妹5人と弟が1人いる10人家族です。2013年10月に単身来日しましたが、心細さや寂しさは全く感じないとのこと。人ととの付き合いが温かく、文化が魅力的な日本への留学を中学生のころから夢していました。「機械工学に興味があったのですが、サウジアラビアでは小学生以上は男女別学で、女子校には学べるところがありませんでした。来日して人生が変わりました！」と目を輝かせます。

日本語学校に1年半通った後、工学部がある東海大学に入学。今年大学院に進学し、現在は被災地での救助活動などで活躍する障害物を乗り越えられるロボットの研究をしています。さまざまな国籍の研究者が集まる学会に参加し、研究発表を聞いて考え方の多様を感じているようです。発表は英語ですが、すっかり日本語に慣れてしまったライラさんはあらためて英語を勉強しています。

大好きな日本食はしゃぶしゃぶ、そば、納豆など。趣味は料理で、里帰りしたときには家族に寿司や天ぷらを振る舞い、とても喜ばれたそうです。

昨年の夏に湘南キャンパスの国際会館で開催された留学生対象の「盆踊り大会」では、自前の浴衣を1時間かけて自分で着て、着付け教室を営んでいる地元の方を驚かせました。アクティブなライラさんは茶道にも興味があり、そこにも和装で参加しているようです。

卒業後は日本で機械関連の企業に就職したいと意気込んでいます。明るく元気なライラさんは、これからも夢に向かって突き進んでいきます。



▲ライラさんお手製の日本料理がずらり！



►和装で茶道教室に参加する  
ライラさん(右)



## 『メディカルアロマでケアする不調』＆『メディカルハーブでケアする不調』講座

体と心をデトックス

～アロマやハーブを知って自分と向き合う～



講師：青山泉  
東海大学医療技術短期大学 助教

自分の好きな香りのアロマやハーブティーがある人も、  
その日の体調や気分にどんなアロマやハーブが効果的な  
のかはあまり知らないのではないかでしょうか？この講  
座は、大学病院で看護師を経験後、看護学科助教として  
看護学生を育成する講師がメディカルな観点を取り入れながら五感を使って教えます。ハーブティーの試飲や  
アロマソープの作成などの実習を取り入れながら、講座  
を進めます。教室に漂う香りを楽しみながら講座を受けてみ  
てみては……？

- こんな方にオススメ
- アロマやハーブに興味がある方
  - 新しく趣味を探している方やスキルアップを考えている方



### お申し込み・お問い合わせ

詳しくは、地域連携センター生涯学習講座の  
パンフレットまたはホームページをご覧ください！

<http://ext.tokai.ac.jp>



Medical Herb

### 受講生のコメント

- 講義だけでなく、試飲や試食をすることでより理解が深まりました！
- エッセンシャルオイル成分が体に直接浸透し、効果を発揮するなど驚きの事実がたくさんありました
- アロマソープを作成したので、おうちで使うのが楽しみです！

## TOKAIグローカルフェスタ GLOCAL FESTA 2019 協賛企業一覧

※ 50音順

たくさんのご協賛・ご協力ありがとうございました



### 「ちえん」設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館など約60カ所で配付中！  
本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。  
東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。

TEL : 0463-50-2406  
E-mail : chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp

### WEB

東海大学のさまざまな地域連携活動の情報や、ちえんバックナンバーを掲載しています。ぜひご覧ください！

WEB  
サイト

[URL: https://coc.u-tokai.ac.jp](https://coc.u-tokai.ac.jp)



### facebook

トコラボシスターズ：大学と地域をつなぐ2人娘（へび・いんこ）とマネージャーが奮闘中！Follow me！



トコラボシスターズ



検索

### ご意見・ご感想をお聞かせください

地域連携紙「ちえん」についてのご意見・ご感想など、お気軽にご投稿ください。  
詳しくは左記QRコードからアクセスし、WEBサイトをご覧ください。

東海大学地域連携センター地域連携課宛にメールでも随时受付中。

東海大学地域連携センター地域連携課  
E-mail: chiiki@tsc.u-tokai.ac.jp



地域連携紙「ちえん」次号は来年1月発行の予定です。